

平成 25 年度放射線安全取扱部会年次大会 (第 54 回放射線管理研修会)のお知らせ (5)

平成 25 年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

平成 25 年度放射線安全取扱部会年次大会は、九州支部が担当し準備を進めてきました。以下に紹介する大会プログラムを用意しました。いずれも参加者の皆様に興味を持っていただける内容を提供できるよう実行委員が案を出し合って企画したものです。本大会では 2 つの特別講演と 3 つのシンポジウムを実施します。特別講演Ⅰはこれまでの年次大会と同様に放射線安全行政の最新情報について原子力規制庁に講演をお願いしました。特別講演Ⅱは日本近代史に詳しく鹿児島にゆかりの深い演者をお願いしました。3 つのシンポジウムは実行委員会で決めたテーマに基づき、魅力的なものとするため担当責任者の下で講師の人選及び内容について検討を進めてきました。いずれも興味深い内容になっていると自負しています。

これまで各地で開催されてきた年次大会ではそれぞれユニークな大会テーマを掲げています。昨年の松山大会のメインテーマ「念ずれば花ひらく」は記憶に新しいところです。今年度の年次大会のメインテーマは「どら、きばんなら！共に」にしました。放射線施設の監督官庁が文部科学省から原子力規制委員会に変わりました。放射線取扱主任者や施設管理者が行っている安全管理の内容に変更はありませんが、規制側と私たちは新たな関係をこれから作っていくこととなります。放射線・放射能の安全な利用を目指して、規制側と利用側で協力していく気持ちをテーマに託しています。テーマの決定

に当たっては、実行委員からテーマの案を提出してもらい、実行委員の無記名投票で最も投票数が多かったものを採用しました。ポスター発表にも力を入れています。ポスター発表の内容を紹介する時間を設けました。詳細については後述のポスター発表募集の欄をご覧ください。

九州支部ではこれまで福岡市と長崎市で年次大会を行いましたが、今回初めて鹿児島市で開催します。会場は鹿児島湾に面する鹿児島市民文化ホールです。会場の窓越しに噴煙を上げる桜島を見ることができます。鹿児島市は観光地としても魅力的な場所で、桜島をはじめとして多くの観光スポットが市内に点在しています。明治維新で活躍した西郷隆盛や大久保利通などの足跡を訪ねることができます。また、独特の郷土料理も合わせて楽しんでいただけます。鹿児島市へのアクセスは航空路や JR 新幹線が利用できます。

実行委員会は特別講演、シンポジウムなどを通して、皆さんに魅力的で、興味深く、役立ち、しかも最新の情報をお届けする意気込みです。ご期待ください。

年次大会概要 (参加費：5,000 円)

- 開催日：平成 25 年 11 月 14 日(木), 15 日(金)
- 会 場：鹿児島市民文化ホール
鹿児島市与次郎 2-3-1
(JR 鹿児島中央駅よりバス約 20 分)
- テーマ：どら、きばんなら！共に

主任者 コーナー

プログラム概要 (予定)

【11月14日(木)】(1日目)

- 9:00～ 参加受付
- 10:00～10:40 開会・部会総会
- 10:40～11:40 特別講演Ⅰ「放射線安全行政の
動向について」(仮題)
(原子力規制庁放射線対策・保
障措置課放射線規制室)
- 11:40～12:00 ポスター発表の紹介
- 12:00～13:00 休憩
相談コーナー
- 13:00～14:30 ポスター発表
- 14:40～16:20 シンポジウム 1 (一般開放)
「母親、子供たちに伝えたい放
射線教育」
- 16:30～17:30 特別講演Ⅱ (一般開放)
「明治維新と現代日本」
原口 泉氏 (志學館大学人間関
係学部教授, 鹿児
島県立図書館長)

18:00～20:00 交流会

【11月15日(金)】(2日目)

- 9:00～ 参加受付
- 9:30～12:30 シンポジウム 2
「福島の放射線環境～その現状
と課題」
- 12:30～13:30 休憩
- 13:30～15:00 シンポジウム 3
「次世代 RI 施設へのロードマ
ップ」
- 15:00～15:30 大会まとめ, 次回大会紹介, 閉会

特別講演

- ★特別講演Ⅰ「放射線安全行政の動向につ
いて」(仮題)
(原子力規制庁放射線対策・保障措置
課放射線規制室)

- ★特別講演Ⅱ「明治維新と現代日本」(一般開放)
原口 泉氏 (志學館大学人間関係学部
教授, 鹿児島県立図書館)

特別講演Ⅰでは放射線規制の最新情報を聞き
ます。RI 関連施設の管轄がこれまでの文部科
学省から原子力規制委員会に移行したことによ
る変更点, 原子力規制委員会の立場からの放射
線安全管理行政について話を伺います。

特別講演Ⅱでは, 鹿児島県立図書館長・志學
館大学教授の原口泉氏が「明治維新と現代日
本」と題して講演をされます。原口氏は日本近
代史が専門で, 鹿児島では知らない人がいない
ほど著名な方です。鹿児島は明治維新に活躍し
た人材を多数輩出した場所であり, 地元の歴史
も織り交ぜた興味深い話を伺えるものと思っ
ています。

シンポジウム

- ★シンポジウム 1「母親、子供たちに伝えたい
放射線教育」(一般開放)
- 1) 福島で聞こえる声から考えること
磯部久美氏 (神戸学院大学)
 - 2) ある日突然被ばくしたといわれて一基礎
教育の重要性
古田悦子氏 (お茶の水女子大学)
 - 3) 原発被災地で求められる放射線教育とは
吉田浩子氏 (東北大学)
 - 4) 放射線の「何」が怖いのか
藤島かおり氏 (日本アイソトープ協会)
 - 5) コーディネーター
石窪奈穂美氏 (消費生活アドバイザー
・鹿児島大学非常勤
講師)

「放射線教育について」は, このところ年次
大会でテーマとして取り上げられています。平
成 23 年度は「教育訓練の向上を目指して」, 平
成 24 年度は「一般の方への放射線教育」でい

ずれも興味深いシンポジウムでした。平成25年度は、「母親、子供たちに伝えたい放射線教育」と題し、昨年的一般の方への放射線教育の企画を継続するものです。「母親、子供たち」に対して、「女性の視点で放射線教育」を語ってもらおうというのが今回の提案です。母親、子供が何を知りたいか、何を知らされていないかを、相手が女性であれば、聞きやすいし、感じやすいのではないかと考えました。この福島や教育の現場で相手から聞かれたこと、感じたこと、相手に伝えたいことを女性の口で話して貰おうというのが、今回の企画です。講師は一線で活躍されている女性陣です。子供の放射線感受性は大人より高い（高線量被ばくの場合）ことから、母親や子供に対する放射線被ばくには高い関心が持たれています。放射線の影響をどのように伝え、正しく理解してもらうかは放射線の安全管理に関わる私たちには常に気になることです。コーディネーターには放射線の専門家ではない鹿児島市在住の方にお願ひし、母親、子供の視点からのシンポジウムを意識しています。

★シンポジウム2「福島の放射線環境～その現状と課題」

- 1) 低レベル放射線被ばくとがんリスク(仮題)
秋葉澄伯氏(鹿児島大学)
- 2) 福島周辺の放射性セシウムの分布状況と経時変化(仮題)
斎藤公明氏(日本原子力研究開発機構)
- 3) 面的除染の効果と除染効果の維持について～除染モデル実証事業の結果から～(仮題)
川瀬啓一氏(日本原子力研究開発機構)
- 4) 水産物の汚染状況について(仮題)
森田貴己氏(水産庁)
- 5) 福島第一原発事故における周辺住民の初期内部被ばく線量推計:現状と課題(仮題)

栗原 治氏(放射線医学総合研究所)

- 6) 原発事故による放射性物質が農作物に与える影響とその対策に関すること(仮題)

佐藤 誠氏(福島県農業総合センター)

東京電力福島第一原子力発電所事故から2年以上が経過しました。リスクコントロール(除染、食品規制)、リスクアセスメント(環境調査、被ばく線量評価)等が継続して進められ、その結果も明らかにされてきています。このシンポジウムでは、最新情報を整理することにより“福島の今”を多面的に理解し、浮かび上がってきた課題に対して主任者として貢献できることを考える一助としたいと思います。

★シンポジウム3「次世代RI施設へのロードマップ」

- 1) 新しいRI管理のやり方について(仮題)
宮武秀男氏(京都大学)
- 2) スペースの有効活用(仮題)
後藤稔男氏(宮崎大学)
- 3) 老朽施設の有効利用と施設移転の経過報告
杉原真司氏(九州大学)

研究環境の変化によるRI利用の減少は全国のRI施設に共通した傾向といえます。しかしながら、日常の放射線安全管理や利用しやすい研究環境の提供は、ますます主任者の重要な役割となっています。このシンポジウムでは、RI施設の再生のための既存施設の有効活用に向けた整備や老朽RI施設の改善整備及び施設への新たな教育研究機器の導入などの事例・ノウハウを計画から完成に至る経験を基に紹介していただき、今後の次世代RI施設へのロードマップを模索するきっかけにしたいと思います。

ポスター発表

日頃、放射線管理等の実務を担当されている方の情報交換の場としてポスター発表を実施します。放射線施設での施設維持管理の新しいア

主任者 コーナー

アイデア、放射線利用、事業所紹介、福島支援活動や支部活動など、お申込みいただいた内容（表題、発表（責任）者）については「ポスター発表一覧」として10月号に掲載する予定です。
○要旨提出期限：9月6日（金）

A4判縦で図表を含めて2枚以内で作成してください。書式は1行36文字、1ページ35行、文字の大きさは12ポイント、余白は上下左右とも30mmとします。要旨原稿は図表も含めてワープロ原稿として、事務局にE-mailで送信ください。

今回、ポスターの概要を紹介する時間を1日目の午前中の最後に設けました。すべてのポスターを紹介しますが、時間が限られていることから、ポスターの講演者ではなく、実行委員会を紹介を行うことにします。どのようなポスター発表があるのか、あらかじめ情報を得て午後のポスター発表を見ることができます。また、例年通り、偶数と奇数番号で説明の時間帯を分けるので、ポスターの説明者もゆっくりとほかの人のポスターを見ることができます。

交流会（参加費：5,000円）

11月14日（木）に鹿児島サンロイヤルホテルで交流会を開催します。交流会会場は年次大会会場のすぐ近くです。鹿児島といえば焼酎ですので、もちろん焼酎も用意します。美味しい料理でしばし鹿児島の夜をお楽しみください。

【連絡先】

○放射線安全取扱部会事務局
日本アイソトープ協会学術・出版課
☎113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45
☎03-5395-8081 FAX03-5395-8053
E-mail gakujuitsu@jrias.or.jp

鹿児島市へのアクセス

鹿児島市へは、中部、静岡、東京、大阪、神戸、松山などの各空港から航空機を利用できます。また、九州新幹線で鹿児島市へ行くこともできます。遠方の場合は、飛行機で福岡市（福岡空港）に移動し、JR博多駅から九州新幹線を利用して鹿児島中央駅へ行くルートもあります。九州新幹線で博多駅-鹿児島中央駅は約1時間30分です。鹿児島県は九州を代表する観光地で、鹿児島市内には宿泊施設もたくさんあります。

鹿児島市民文化ホールへのアクセス

年次大会会場の鹿児島市民文化ホールはJR鹿児島中央駅からバスで約20分の場所にあります。バスの便が限られているのでタクシーの利用が便利です。会場からは鹿児島湾越しに桜島が一望できます。

鹿児島市の楽しみ

明治維新に活躍した志士の観光スポットが市内にたくさんあります。ガイドマップ片手に散策するのも楽しみです。市内には温泉が点在しており、温泉を使用している銭湯もたくさんあります。足を延ばせば指宿、霧島などの有名な温泉地も近くです。南国の鹿児島には郷土色ゆたかな料理がたくさんあります。“お酒”と料理屋で注文すると、まず間違いなく焼酎が出てきます。日本酒を飲みたいときは必ず日本酒と言わないといけなのが鹿児島です。郷土料理と焼酎もご堪能ください。

実行委員一同、皆様のご参加をお待ちしています。大会の詳細をはじめ、有用な情報は下記のホームページをご確認ください。

<http://www.ric.kyushu-u.ac.jp/jrias2013/index.htm>